

紹介

女性タワークレーンオペレーターからの報告

斉藤 愛*

はじめに

建設現場への女性の進出は、1980年代後半のバブル期から始まっている。

中でもタワークレーンの女性オペレーターは「国内初の女性クレーン運転士」として話題となり、当時の写真雑誌などに取り上げられた。

それから30年近く経過しており、現在の女性オペレーター等にスポットを当てて、今回を含めて今後何回かに分けて記事とさせていただきます。

[報告]

1 現場での1日

携帯電話の目覚まし時計機能が鳴ったら今日一日が始まります。着替えを済ませたらカーテンと窓を開けて、空気を入れ替え朝食と身支度を済ませて出勤します。

早朝電車に乗って北千住駅からは歩いて15分で現場です。ここは大林組・大本組JV様が施工の土木工事現場で、都市部では突発的に大雨が降ることから道路の冠水や家屋の浸水対策として、雨水を地下の巨大水槽に一時的に貯留し、隅田川に放水するポンプ所の建設を行っています。

現場に着いたら、作業服に着替えます。安全靴を履いて安全帯をしてヘルメットを被って、あご紐を締めたら戦闘モードに突入です。

ベース部分からタワーの梯子を登って旋回体へ行き真っ先に行うのは、始業前点検です。

旋回体の後ろに行くと、ワイヤーの乱巻きが無いかどうか、油モレが無いかどうか、その他の問

題が無いかどうかを確認します。運転席に着いたら電源を入れて、リミットの点検を行い、無線のスイッチを入れて準備完了です。

合図は、「ゴーハイ」と「スラー」と「旋回」があります。

「ゴーハイ」は、上げる事なので「巻上と起こし」

- ・小（フック）ゴーハイなら「巻上動作」
- ・親（ジブ）ゴーハイなら「起し動作」

「スラー」は、下げる事なので「巻下と伏せ」

- ・小（フック）スラーなら「巻下動作」
- ・親（ジブ）スラーなら「伏せ動作」

日本のクレーンに関する言葉は、英国船舶用語から発生したものが多く様です。「ゴーハイ」は、前進・船首の方へ進めを意味する「ゴー・ア・ヘッド」が語源です。

8時から運転業務が始まり、12時にはお昼休憩です。降りてもいい高さですが、現場の近くに飲食店はおろか、コンビニも無いので通勤途中にコンビニに立ち寄りお弁当を買うか、お弁当を作ってクレーンの運転席の中でゆっくりと食べています。トイレも運転席の中に完備されています。

昔は、燃焼式とかバイオ式とかあった様ですが最近では、“ラップポイントイレ”というパッキングするトイレが主流の様です。現場の中にも女子トイレが完備されているので、クレーンを降りても困る事はありません。

運転作業が終わったら、梯子を降りて現場担当者や打合せです。職長をしているので、作業終了後に翌日の全クレーン（6台）の予定を頂きます。週末には、大まかに次週の予定をメール（携帯）で頂き他のオペレーターさんと共有しています。

* Ai Saito ニシオワークサポート株式会社

2 現場のタワークレーン

私がいるこの現場は、タワークレーンが建つのは珍しい土木現場でケーソン工事です。

ニューマチックケーソンという工法で、ケーソンの下部に圧縮した空気を満たした作業室で地下を掘削し、ケーソン躯体ごと沈下するので、その上に建つクレーンも一緒に沈下する大規模なケーソン工事になります。クレーンは、ケーソン内の底に基礎ベースが設置されています。クレーンもケーソンと共に下がるという現場なので、クライミング作業を行ってもケーソンの沈下により地面からのクレーンの高さがあまり変わりません。ケーソンの沈下の際は、不思議な振動を感じます。朝礼の際、沈下の有無を知らせてくれますが、沈下時間までは分からないので毎回沈下の振動を感じるわけではありませんが、自分でどうにも出来ない事なので少し構えてしまいます。

建築現場との大きな違いはPCやALC、鉄骨の建て方は無く、潜函工がケーソン下部の作業室に降りる『マンロック』や、作業室で掘削した土を地上に排出する為の『マテリアルロック』などの重量物の艤装など、仕事内容や工程のサイクルが建築現場と全く違います。

そして何より凄いのは、東西隣り合わせのケーソンに3機ずつ、6機のタワークレーンが隣接して立っている所です。勿論、オペレーターも6人いますが、私を含めて二人は女性です。



写真1 クレーン上のオペレーター

3 就職してから

高校を卒業してすぐ、北の田舎から上京しサー

ビス業一筋で長い間、仕事をしてきました。人生四半世紀をちょっと過ぎた頃、いわゆるアラサーに差し掛かった時、「このまま年を取っていくけれどもいいのだろうか」と考え始め、かなり思い切って転職を決意しました。

縁あって全く違う異業種の建築現場の受付業務につく事になりました。派遣社員でしたので、派遣契約期間の間に自分の『本当にやりたいこと』を探そうと決めました。そして、その建築現場にタワークレーンのオペレーターとして来ていたSさんとKさんに出会い、話をしているうちに私もやってみたいと、この仕事に飛び込みました。

両親や友達にはクレーン免許を取るまで内緒にしていたので、免許取得とオペレーターになる事を伝えると、母は「なんでクレーンなの？」と頭に〇〇がある様な声で、その後、何も言わず大きなため息をつきました。機械屋の父親は、「地黒なお前が日に焼ける仕事をして、真っ黒になるだろう」と笑っておりました。友人には、「アンタらしいよ、なかなか思い切ったねえ」と苦笑いされました。

4 高所恐怖症？

初めてクレーンに乗ったのは、建築現場のクレーンマスト高さが120mありました。オペレーターになる前、初めて乗ったクレーンがいきなりの100m超えて、あまりの高さに現実味が無く、当時はまだオペレーターになろうと考えていませんでしたから、一生に一度の経験だと思い、思い切って3柱分のマストを登りました。足元の高速道路を走る車はミニカーですし、雨上がりの晴れた日でもやががかかっているととても景色が綺麗でした。

仕事に差し支えがないよう昼休みの時間内で登って降りて来なければいけないというプレッシャーとスイスイと先を登る案内の現場監督さんの「ゆっくりでいいよ」という説得力のない言葉と緊張感で頭の中が混乱状態でした。ひたすら「手を滑らせても、足を踏み外しても、どちらかだけでもやってしまったら落ちて死ぬ」と必死に登りました。

—揺れる—

初めて自分一人で運転した時は、乗ったクレーンのフットブレーキをいきなり踏んでしまって大

きく揺れビックリした覚えがあります。揺れないクレーンと揺れるクレーンに乗る機会がありましたが、クレーンによって違うんだと身を持って実感しました。

—高い—

高いところは好きです。展望台に行くと3~4時間は粘ります。しかし、高層のクレーンにはまだ、乗って運転した事がないので、どんな気持ちか分かりません。

—怖い—

私がレバーを動かす事でクレーンが動き、当たり前ですがやはり、最初は旋回の高さに体が慣れず、怖さを感じました。しかし、毎日危険と隣り合わせで仕事をしているので私も玉掛け者も「怖い」思いをしないような運転を心がけています。

—クレーン運転士免許取得—

○学科に頑張った

1回目は派遣契約中にどの様なものなのかという様子見で参考書を買って、それだけを勉強して挑み、見事に散りました。

2回目は派遣社員の契約終了後、すぐにクレーン学校に通ったのち、すぐに受けましたが、ほんの数点足らずで落ちました。

3回目は、1回目、2回目の失敗と出題問題の傾向を踏まえて挑みました。試験終了後、4度目の試験の申し込みを試験会場でした際、受付の人に「結果も出てないのに申し込むんですか？」と言われ、「お守りです。」と答えて申し込みの手続きをしました。4回目はお守り効果、いえ、頑張った結果が報われました。

頑張ったとはいえ、完全な文系女子が免許を取得したのは奇跡に近いものでした。20代後半で勉強を頑張るとはこんなにも大変かとも思いました。笑。

○実技に頑張った

クレーン学校で実技を受けましたが、当時、車の免許すらない人間でしたから、【自分で運転する】感覚にビビリっぱなしでした。講師の先生も鈍臭い女子相手にどう教えたらいいのかとかなり困惑していました。

—費用—

ざっと簡単にですが、クレーン学校費用+学校



写真2 クレーン運転室内

までの交通費+ (試験代+試験場までの交通費)×4+玉掛講習代です。これにお弁当代などを少しプラスしても、一発合格ならお安いと思います。

5 クレーンの中について

経験したタワークレーンは下記の通りです。

OTS-120N

JCC180U

クレーンの中にいる間に感じた地震は数少ないですが、東日本大震災の様な大きな地震が来ないことを祈りながらクレーンに乗っています。雷・風はクレーンに乗るようになってからも音も含めて敏感に反応するようになり、怖いと感じるようになりました。

今の現場ではクレーンが隣接しているので、風見鶏の様に旋回をフリーにする事が出来ません。その為、大きな台風が来た去年はクレーンの中で一晩を明かしました。噂には聞いていましたが、オペレーターになってすぐまさかの〔クレーン内で待機〕になろうとは、よい勉強になりました。

—クレーンで味わえる五感—

●視覚

「全てを見ろ」。現場研修中に指導をして下さった先輩オペレーターさんの言葉です。上から見える分、玉掛けの際に玉掛け者が気づかない周りの状況やワイヤー、風向き、他のクレーンの動き、

揚程に、荷重、どれを見落ととしても事故につながります。研ぎ澄まさなければならぬ大事なものです。

●聴覚

クレーンの異音や、周りから聞こえてくる音、雷の遠近感もそうです。視覚同様、とても気にします。そのおかげで日常生活において大きな音がするとすぐ驚くようなビビリ人間になりました。

●嗅覚

ブレーキパットの焦げた臭いだけはしない様に心がけています。笑。

●味覚

クレーン上で食べるカップラーメンは最高です。

●触覚

運転は左右両手でレバーを握っています。

6 現場について

朝が早い現場仕事です。規則正しい生活は勿論、一週間のうちに「今日は仕事が終わったらあそこに買物に行こう。明日は友達に会う日にしよう。明後日は仕事が終わったら真っ直ぐに家に帰って休もう。」という具体的な生活の計画を立てる様になりました。

最初は毎日失敗ばかりでした。免許取得後、クレーンの整備工場での研修期間から聞かされていた「現場は甘くないよ。」の言葉を胸に挑みましたが、それ以上だったかも知れません。現場研修期間は教育係をかって出た先輩オペレーターさんに毎日怒鳴られながらの作業でした。部材の名前もよく分からない、工程の意味が分からない、鳶さんに怒られる。疑問に思ったことを聞いてみるのですが、緊張して焦り過ぎて頭に全く入っていかない。焦る程にフックは揺れて立て直そうとするとますます荷は揺れる。振れ止めの技術もままならない状態でした。

玉掛作業の作業員さんともコミュニケーションが上手いかない、焦ってしまって周りが見えなくなる、何をしていたのか分からなかったのか何を確認すべきだったのかすら分からず、「どうしよう、どうしよう。」と最悪な事態となってしまう『分からない自分』に腹が立ち毎日泣きながらクレーンに乗っていました。

現場はワンプロックごとが真剣勝負です。「これくらいでいいや。」そのようなことは一切、許されません。操作一つ間違えば、大事故に繋がる。基本に忠実に。今もこの気持ちに変わりはありません。独り立ちをして仕事をしています。先輩オペレーターさんの言葉を思い出し「自分は今、『基本に忠実に』運転が出来ているだろうか」と見直す事があります。基本を教えてくださいました先輩オペレーターさんには、感謝の気持ちでいっぱいです。

普段から食事の不規則、寝不足で体を壊さないようにしており、あまり飲めないお酒も呼ばれたりした日は週末以外は控えめにしています。無理な事はしないように体と相談して食べたり飲んだりするようになりました。そして太らないよう暴飲暴食、間食はしない様に心がけています。体が重くてマストを登るのは仕事前から疲れてしまうので、それだけしないようにしています。

給与は、事務員さんのお給料からようやく新人オペレーターのお給料になりました。腕を上げて現場さんからご指名いただける引張りだこなオペレーターになって稼ぎたいです。

オペレーターになった動機は、一年発起、長年努めていたサービス業を退職した後、派遣社員の出向先の建築現場の受付業務をしていた時、よく打合せで現場に来ていたレンタル会社の営業所長さんと話す機会があり、クレーン解体前にクレーンに乗せてもらい、高さと大きさ、自分の全く知らない世界が広がっていたことに感動しました。

こんな機械を動かしたらカッコイイだろうなあと思っただけの子供の夢のように漠然と思っただけですが、一度きりの人生、結婚前の最終職歴に（笑）一世一代、『やってみよう』と決めた仕事なので頑張ってみようと思いました。独身を買っても女一人で食べていける職業かなとも思いました。

7 建設現場のルール

一朝礼

クレーンオペレーターは朝礼前にクレーンに乗っていることが多いと聞きますが、この現場は周りがマンションなどの住宅街になりますので、作業時間が決まっており、朝礼終了後、KY活動を

行った後にクレーンに登ります。

全員がクレーンに上った事をオペレーター専用無線機で確認するのが私、職長の仕事です。

8 現場の女性が苦勞する事

仕事内容としては、素手で運んだり切ったり貼ったり組んだりすることはないので男性オペレーターと変わらない仕事の内容だと思います。作業着を着替える場所やトイレはやはり完備頂ければ最低限、問題はないと思います。「女だから」と嫌味を言われぬように技術をあげて、モノを言わせぬようにしたいですね。



写真3 クレーン運転時の状況

9 オペレーター魂

『なりたい職業でも実際になってみて分かる苦勞やギャップ』というものが、必ずと言っていいほどあるはずです。私も、『クレーンオペレーターになりたい』と決意し、勉強をしている時に街で目に入ってくるタワークレーンの姿に思いを馳せました。そして実際に初めて現場に出てみて現場の流れやルール、作業員さんとのコミュニケーションの取り方や玉掛け者との信頼関係、合図の癖など分からないことばかりで困惑しっぱなしの毎日でした。

クレーン作業は危険作業であることへの緊張感と責任に押し潰されそうになりましたが、それも

全部まるごと自分で受け止め、荷もフックも振れることなく綺麗に揚重出来た時、『オペレーターになってよかった。』と思いました。『ワンフックに魂を込めろ』の先輩オペレーターさんの教えを忘れず、気を緩めることなくどんな時でも焦らず対応出来、丁寧な揚重作業が出来るプロのタワークレーンオペレーターになりたいです。

10 おわりに

オペレーター暦1年ちょっとの私が、このような場を設けて頂き、大変恐縮です。免許取得してからオペレーターになって現場に出るまでには、沢山の方の助けやお力添えがありました。感謝の気持ちで一杯です。

しかし、女性がクレーンオペレーターになる環境としては、まだまだ壁があります。新人であれば現場研修期間の徹底、現場様の女性に対するご配慮と、一番は本人の高所作業で重量物を取り扱う危険作業である事への自覚です。

1回の気の緩みで大事故になりますので、クレーンオペレーターは、加害者になりうるという緊張感や女性オペレーターだから～ということと言われぬような技術の向上が必要です。

建築、土木現場で働く女性が少しずつ増え現場の雰囲気は良くなっていると聞きます。実際に現場に入って気がつくことが多いと思います。その都度、現場担当や作業員さんと話し合いを持って改善することはいくらでも出来ると思います。

楽しく、良い環境でかつ安全に皆さんがお仕事できるようお祈りします。ご安全に。



写真4 現場確認中